

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名> 皮膚疾患画像データベースの構築とAI活用診療支援システムの開発</p>
<p><研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 皮膚科 (研究責任者)葉山 惟大</p>
<p><研究期間> 承認日 ～ 西暦 2022年 4月 1日</p>
<p><研究の目的と意義> レントゲン写真やCT画像を人工知能(AI)により自動診断するシステムの開発が進んでおり、近い将来AIによる自動読影が可能となると考えられています。一方、皮膚科領域はテレダーマトロジーとも呼ばれる遠隔診断システムが民間業者によりすでに実用化していますが、これはAIではなく皮膚科医が写真や臨床情報を基に遠隔診断しているため、多くの症例を短時間に処理することはできません。 AIの開発には多量かつ良質の皮膚病の写真が必要であることから、今回AI開発に皮膚科医有志が集合し皮膚炎症性疾患を中心とした皮膚画像収集からAI開発研究を開始しました。主研究施設である東北大学がAI開発の中核施設となって研究をおこないます。データベースは臨床写真、ダーモスコピー写真、病理組織写真、そしてそれらの症例に紐付けされた臨床情報が集積されます。</p>
<p><利用する試料・情報の項目> 臨床写真写真とその診断名、年齢、性別、診断根拠となった臨床情報、治療内容、そして転帰などの情報。</p>
<p><対象となる患者さん> 西暦2000年1月1日～西暦2019年7月31日の期間に当院皮膚科で掌蹠膿疱症と診断され臨床写真を撮った方</p>
<p><研究の方法> 日本大学医学部皮膚科で保存している掌蹠膿疱症の患者さんの写真を解析します。画像解析ソフトに写真のどの部位に膿疱や水疱、紅斑があるかを記録します。また電子カルテより臨床情報(年齢、性別、診断に必要な検査データ、治療、転帰など)を収集し記録します。</p>

<外部への試料・情報の提供等>

東北大学医学部皮膚科へデータの提供を行います。データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。提供は匿名化を行います。

<研究組織>

主研究施設:東北大学医学部皮膚科(責任者名 山崎研志)

研究協力施設:日本大学皮膚科(研究者名 葉山惟大)、愛媛大学皮膚科(責任者名 佐山 浩二)、福島医科大学皮膚科(責任者名 山本 俊幸)、東京医科大学皮膚科(責任者名 大久保 ゆかり)、聖母病院皮膚科(責任者名 小林 里実)

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

皮膚科 氏名:葉山 惟大

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2502 (PHS)8144

日本大学医学部附属板橋病院(ver.1705)